

47th Annual Scientific Meeting (EUBS 2023) in Porto; 13-16 September

コロナ禍のため延期となっていたポルトでの EUBS ですが、久しぶりの欧州における高気圧関連学会開催とあって、約 315 名の出席者があったとのことでした。Web セッションはなく、全て会場での口演（英語）ですが、高齢の先生数名がポルトガル語とスペイン語で発表されてました。

初日 9月13日

10 時より、抄録に記載のないワークショップが開催され、高気圧治療関連の講演が続きました。会場からは“先週、以前に HBO 治療既往がある長期臥床の患者に HBO を行ったが、患者は肺梗塞を起こしていた”との発言がありました。午後のワークショップは Workshop 2 -Scientific Writing- にエントリーしていましたが突然中止となったため、Workshop 3 -Management of the critically ill patient in The Hyperbaric Medicine Unit のセッションへエントリーしました。HBO の適応に関し、不安定な循環動態に関する議論が活発になされていました。

2日目 9月14日

HBO の現在と未来に関するレクチャーの後、HBO 治療に関する演題発表がなされました。日本は米国と並んで HBO 機器数が多いことが伝えられ、CO 中毒に関する発表では山口大学藤田基先生の文献が引用されていました。

3日目 9月15日

Arctic Diving に関するレクチャーの後、ダイビングに関する様々な発表がなされ、日本のアマに関する論文も引用されていました。Lunch time には ePoster セッションが掲示され、これは自由に画面を検索して、いつでも閲覧できるスタイルとなっていました。個人的には HBO 中に気管支喘息発作を発症したと思われる事例が興味深かったです。

4日目 9月16日

午前中のフリーダイビングに関するセッションで本学会は終了しました。

全体を通じての注目は COVID-19 感染後関連疲労に対する HBOT で、女性 2 名、男性 5 名へ 130min、2.4ATA、30 session にて Chalder fatigue scale を測定したところ、Over attention と Excusive function が改善し、これは罹病期間ではなく最初の疲労レベルと関連していたとのことでしたが、対照群は未設定でした。

次年度は 2024 年 9 月 16-20 日にフランス西部の軍港 Brest で開催されることがアナウンスされました。